

2020年度自己評価報告書

学校長

自己評価について

A：十分できた B：だいたいできた C：あまりできなかった D：全くできなかった

1. 学習指導

- (1) 専門性を高め、教科指導力を向上させる。 B
- (2) 生徒の学習意欲を喚起できる、生きた教科指導をする。 B
- (3) 生徒の進路達成欲求に答えられる、受験指導能力を身につける。 B
- (4) 学習習慣作りのための具体的展開を実行する。 B

新型コロナウイルス感染症の影響による休校中は課題提示、YouTube 授業動画配信、そしてオンライン授業などへの対応ができたことは良かった。しかし、学習定着、実力養成においては個人差が出てしまった点がある。

私学にあっては魅力ある授業、力をつける授業を展開できることが、生き残りのための必須条件となるので、各個人意識を向上させ、魅力ある授業者となるような研鑽が必要となる。朝学習、講座制、予備門などの充実により具体的な展開をしているが、高校においては三ヵ年を見通した朝学習の在り方を検討していくことが今後も必要であり、日常の生徒の学習活動に対する意識付けの方法について学校全体として取り組む。

2. 生徒指導 「時を守り、場を浄め、礼を正す」

- (1) 時間の厳守 A
- (2) 清掃の充実 A
- (3) 挨拶の励行 A
- (4) 服装指導の徹底 B

朝学習の定着により遅刻の数は少ない。日常の授業開始における時間を守る意識が高まっている。学校全体の清掃については校務の方々に依頼し、廊下・教室の床等については清掃が行き届くようになってきている。クラブ活動生徒を中心に、しっかりとした挨拶のできる生徒が増えてきた。全校的にも徐々に浸透してきている。

①実施内容 (Do) ②実施状況 (Check) ③今後に向けて (Act)
--

I 「四つの道しるべ」を基軸とした学校作り B

◆「学び知ることの楽しみを味わおう」

- ・授業の充実(教材研究、授業研修、教科指導力の向上) B
- ・学習習慣作りの工夫 B
 - ①朝学習・補講・講座制及び学年ごとの取り組みをした
 - ②中学・高校とも積極的に行っている A
 - ③高校新カリキュラムの完成年度を見越した朝学習の組立が必要
- ・自主的、自律的学習の支援 B
 - ①講座制・予備門導入及び各教科担当者の取り組み
 - ②講座制導入により生徒に自主的な学習姿勢作りを促すことができた B
 - ③講座参加への意識付け等、と学習に向かう姿勢づくりをさらに強化

・授業評価・学校評価 B

- ①学校評価については第三者評価、大谷連合による相互評価を行う。
- ②具体的な取組として生徒アンケートを実施。 B
新型コロナウイルス感染症により大谷連合による相互評価は行っていない。 D
- ③より実践的な評価のあり方を模索していく。

・キャリア教育の充実 B

- ①進路指導部を中心に、学年と連携をしている。
- ②エナジード教材はオンラインでも実施、さらに充実した内容になっている。 B
コロナの影響もあり、外部の方を招いての実施が全くできなかった。 D
- ③よりよい内容になるよう創意工夫する。大谷大学との連携をさらに強化していく。

・文武両道の道 B

- ①クラブ顧問や学級担任、教科指導者が文武両道の指導を行った。
- ②クラブ顧問との連携をし、学習することの大切さを習慣づけることができている。 A
- ③学校全体のコンセンサスをとり、クラブ顧問との連携をしていく中で、意識付けをさらに強化していく。

◆「すなおな心で真実を求めよう」 B

- (1) 宗教的素養を持った人格の育成
- (2) 自立した人格の形成
- (3) 自ら考え、行動できる生徒の育成
 - ①宗教行事や職員研修、宗教部発行の「要」等により、札幌大谷の教育の願いを周知徹底した。
 - ②教員個人により、真宗大谷派の考え方に対する理解がまちまちである。 B
 - ③建学の精神の具現化について明確な指針を提示する。
大谷の教育の願いに対するコンセンサスを得るようにする。

◆「身体をすこやかに鍛えよう」 B

- (1) 生活習慣作り B
 - ①教職員全体での共通理解を喚起する
 - ②「あいさつ」と「清掃」指導は充実してきた。 A
 - ③札幌大谷としての生活習慣作りについて、教員相互理解を深める。

◆「限りなき恵みに感謝しよう」 B

- (1) 仏教的情操教育による心の育成 B
 - ・コミュニケーション力（互いに学びあう仲間として） B
 - ①学級活動や生徒会活動、クラブ活動等で互いにコミュニケーションを取り合う工夫をした。
 - ②平素より他者とコミュニケーションをすることの大切さを指導する必要性を感じた。 B
 - ③教員自らが、よいコミュニケーションがとれるように意識して生徒に働きかける。
- (2) 個性教育 B
 - ①各科・コースともその教育の願いのもと、それぞれの分野で努力した。
 - ②授業の質・技術指導の質を向上させる取り組みを徐々に行っている B
 - ③授業の質や授業力を向上させるための研修が必要である。

II 「体罰・暴言・いじめ」のない学校作り B

- ①「札幌大谷スクールコンプライアンス」「札幌大谷中学校・高等学校いじめ防止基本方針」「札幌大谷中学校・高等学校問題事案への対応方針」を策定している。
- ②際だって大きな問題は出ていない。 B
- ③いじめはいつでも起きうるといふ危機感を持ちながら、いじめのない環境作りのために創意工夫しなければならない。教員としてのコンプライアンスは毎年丁寧に行い、意識喚起を行う。

III ホスピタリティに満ちた教育実践（生徒・保護者とのコミュニケーション） B

- ①教育相談を早い時期に行うことで、保護者とのコミュニケーション作りを行う。
- ②コロナにより、オンライン実施になった。
保護者の意見を聞く機会、学校の教育の願いを伝える機会が足りなかった。 C
- ③学級懇談の実施や学年便りの充実、担当教員と生徒・保護者の信頼関係を構築することを意識的にしなければならない。

IV クラブ活動について A

- ①中学・高校とも充実したクラブ活動運営にあっていた。コロナ対応のための本校クラブガイドラインを策定した。
- ②コロナの影響で多くの主要な大会が中止となり、多くの制限の中での活動を余儀なくされたが、ガイドラインに沿ってできる限りの活動を行い、全国大会出場を果たしたクラブがある。 A
- ③クラブ活動の方針・願いを再確認し、開かれたクラブ運営をしていく。

V 中高大の連携 B

- ①幼中高大連携推進委員会を定例化し、総合的な見地から検討した。
- ②大学との連携強化に向けた流れができてきている。 B
- ③学園生き残りのための方針策定を今後も積極的にすすめていく。

VI 運営改革企画室会議 A

- ①学校の進むべき道を皆で考え、協議し推進する場として機能した。特に入試関連については全校的な視点に立った協議ができた 生徒募集や学校作りの根幹となる部分の具体的組み立てを行う。
- ②入試については、コロナと少子化の影響もあり、年度実績を下回る結果となった。 B
- ③新たな募集戦力を策定していく。

VII 六カ年型の学校作り A

- ①校長方針にて提案し、各部署にてその具体的展開にあたった 特に中学の新プログラム（エミネンス・プロディジー）新コース（医進選抜）を立ち上げた。
- ②六カ年教育に対する理解が深まっている。 A
- ③中学生徒募集が高校生徒募集の要であることを認識し、共通理解を図りながら六カ年の学校作りを充実させる。

VIII 入試に向けて B

- ① 中学、高校とも少子化による困難性の中で募集をおこなった。
中学は新プログラム、新コースによる募集展開をした。
高校はこれまでとおり、個性重視（学習・芸術・クラブ）の募集展開をした。
- ② 中学は102名、高校は定員298名の生徒募集が出来た。B
学校公開に於ける実施方法や生徒による説明など、工夫の余地はたくさんある。
- ③ 中学における新プログラム。新コースの充実と安定化。高校募集の新たな戦略のために知恵を出し合い、管理職会議・運営改革企画室会議・部主会で議論し、実践する。

IX 経費節約について B

- ① 予算案の縮減等の取り組みをしている。
- ② 学校の財務状況を共有理解し、節電等、学校挙げてさらに取り組むような意識付けをする必要がある
- ③ 経費節約等についての具体的な話し合いをし、共通理解を図る。

X 設備の補修・整備について A

- ① グラウンドの人工芝化、校舎補修等を行った。
- ② 多目的の人工芝グラウンドが完成した。
- ③ 選択教室等の確保をする必要があり、各部署からの意見を集約しながら、計画を立案する。

XI その他 C

- ① 一部教員とは話し合いを深めてきた。
- ② コロナ対応に追われ、十分にはできていない
- ③ 計画的に実施していく必要がある。時間を見つけて意見を聞く場を設けていきたい。